

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300630		
法人名	社会福祉法人愛光園		
事業所名	愛光園第二グループホーム	ユニット名:	愛
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1386		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071300630&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071300630&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方が健康面、精神的にも安心して生活できるよう医療機関や家族様等と連携をとるように心がけています。また、季節感をもっていただけるよう、季節ごとの行事や畑作り、散歩などを行なっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR駅に近く、近隣にはスーパー等もあり、交通の便がよいので訪問しやすい。同じ敷地内にはデイサービスも併設されており、利用者との交流もみられる。建物の内部は暖かみのある木材中心の構造になっており、入居者は自宅に居るような雰囲気の中で過ごしている。ホームの隣接地には菜園もあり、季節の花が植えられたり、作られた野菜は食材として使われている。職員は「その人らしさ」を念頭におき、入居者の自発性を尊重しながら「待つケア」をこころがけ自立した生活が送れるよう支援している。又、認知症専門の協力医とは連絡体制が密に整っており、適切な対応、治療につながるので、入居者は安心して過ごせている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」を理念にしています。	「その人らしく生き生きと」という理念が、受付の奥に掲示されているが、実践に繋げていく具体的内容がわかりにくい。又、職員全員が理念を十分共有するには至っていない。	地域密着型サービスの意義を管理者・職員間で話し合い、意識づけをし、地域に根差した事業所として、日々のケアに活かすことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や通勤時に近所の人に会えば挨拶をしている。定期的に地域住民のサロンに呼ばれ出かかっている。	住民会館でのサロン行事には月に一回、一部の入居者が参加しており、年に数回は、住民会館に向いて認知症のサポーター養成講座を開いている。近隣住民とは散歩や買い物の際に会話を交わす関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物時挨拶をしたり馴染みになってきているので「やんわりと」認知症の人について理解しはじめてくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議をもち、サービス向上につなげている。	会議は年に一回の開催に留まっているが、参加者が地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域サロンの代表、家族等、以前に比べて増えてきて、地域との繋がりができつつある。	馴染みの関係作りを進め、地域の意見や情報を得るためにも、地域とのかわりを深めるような議題を考え、開催回数も増やしていくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡等は出来ていない。	町のやすらぎ対策課には介護保険関係の書類は提出するが、事業所の様子や実情などの話はしていない。市の担当者の交代が頻繁なので関係性が築きにくい。	町役場には日頃から出向いて顔が見える関係をつくり、担当者には書類提出だけでなく、積極的に協力関係を築く取り組みを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員については正しく、具体的には理解できていない人もいるが「何となく」は全員分かっている。	安全性を考えて、玄関は二重ロックに、2階のベランダも出られないようになっている。拘束についての認識が不明確で、拘束しないケアについての理解が十分でない職員もいる。	鍵をかけない為の工夫を前向きに考え、徘徊や帰宅願望の要因や動機を探り、本人の立場で向き合い、チームでどう対応するのか、研修の機会を設けることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後勉強をしていきます。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入れ替わったスタッフは知らないと思いますが経験の長いスタッフは勉強したので理解できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に家族様等に説明し疑問点など質問してもらい、行き違いのないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は常時受け付けており利用者も言いやすい職員に言ってくれ、それを管理者に伝えている。	玄関の苦情箱や受付の相談窓口に家族からの意見はあまり出ていないが、家族の訪問時に聞いた意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者さんへの対応は直ぐに意見を出し議論して反映できている。 大きな変更等(外食等)は出来ていない。	ミーティングやケースカンファレンスは毎月、開催され、日々のケアの中での改善点は全員で話し合う体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休が取りやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少なく思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は出来ていません。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人さんや家族さんに会い話しを聞き情報として役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族様に話しを聞き、情報として役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他機関と連携をとっているが十分とはいえない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自由に発言できる場面や日々の役割を持ってもらい「共に生活する人」と認識してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加時に発言しやすい雰囲気をつくり、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など立ち寄りやすい雰囲気をつくっている。 家族さんの希望があれば墓参り等に外出してもらっている。	地域住民の訪問はあまりないが、親しかった友人の来訪や、併設のデイサービスの利用者との関係継続の支援に努めている。家族がいない入居者の墓参りに職員と一緒にいくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に数回会議の場をもち利用者同士の関係が把握できるよう努めている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム、法人で対応できることはおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の想いを繁栄できるように努めているが本人の意見が出にくい場合は本人本位で検討している。	その時の表情や様子で、気持を把握している。利用者の思いを尊重して、調理手伝いや食器洗い、雑巾作り、仏壇の供え物の買い物等を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の話を参考にしたりセンター方式を記入してもらったりして、把握できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に利用者様の状態について会議の場をもち、介護者の意見交換のもと状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の希望を反映できるよう情報収集し、職員で話し合い介護計画につなげている。	家族の来訪時に要望や意見を聞いて、介護計画に活かしている。モニタリングは6か月に一回になっているが状態変化があれば、即時対応し、介護計画を見直し実践に反映させている。	モニタリングの設定期間は短めにし、センター方式の活用を活かし、一人ひとりに即した介護計画の作成に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトに入力しており、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所では対応できないことは、他の事業所や医療機関を中心に連携をとっている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源としては散歩と買い物の中でのふれあい程度である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受診などもおこなっている。	医療機関の選定は本人や家族の希望を優先している。連携をとっている協力医の往診もあるが、通院や受診は家族が同行している。家族が付き添えない時などは職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関の看護師が訪問してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ADLなどの諸情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについての指針をまとめ、家族様に説明している。	入居時に事業所の方針を説明し、家族に同意を得ている。同一法人の特養に入所となるケースが多くここでの看取りは今後に向けて検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しているが訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は行なっているが地域との協力体制等は築けていない。	災害時の緊急連絡網は出来ているが、地域住民との協力体制はない。年に2回の防火訓練は職員だけで行っている。	避難訓練には入居者も参加し、また、運営推進会議を活用し地域住民に対する協力等の呼びかけを期待する。

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは馴染み出来る様に、又失礼の無い様に気を付けています。	名前呼び方を含めことば使いに対して尊厳を傷つけない配慮をしている。呼びかけ時の声のトーンも低く、ゆっくり対応し「待つケア」を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のなかで利用者の希望を見つけ、その希望をできるかぎり聞き入れ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているのでその中でその人のペースを大切にしている。どのように過ごすかも本人の希望に出来るだけ沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭剃りを促している。服の購入も出来るだけ一緒に行き本人の気に入った物を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は毎日一緒に食べている。又準備や片付けは毎回、利用者さんの日課となっておりさりげなく支援している。	食材は二日に一回、入居者と共に近隣のスーパーで購入している。調理の手伝い、下膳、食器洗い等一連の作業も職員と共にしながら、同じ食事を入居者と職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士と連携をとっている。水分摂取が少ない方はチェックシートを作り水分補給が出来る様促しています。水分の制限が必要な利用者さんは一日の水分量をペットボトルに入れ管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった口腔ケアや義歯洗浄を行っている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立できるよう、トイレ誘導などを試み、オムツの使用は最小限にしている。	自立している人が多いが排泄チェック表を参考にして、その人に合った自立に向けた支援をしている。オムツの使用は夜間のみにするなど、できるだけオムツを使用しないケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体調を整える目的で体操を行い便秘ぎみの人は水分を多くとってもらったりヤクルトやヨーグルト等の乳酸菌も摂っていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっておりますその中で利用者さんの希望に沿える様にしている。	入浴は週に三回、個浴で時間帯は午後からになっている。夜間は入浴できる体制にないが、清拭で対応するなど工夫し、入浴を躊躇している人には言葉かけを工夫して待つ等、本人の意向に添った対応を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自己決定してもらっています。日中でも眠気を訴える利用者さんには昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルしている。服薬カードを作り服薬時に照会している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聞き取ったりセンター方式に記入してもらったりして活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊は家族さんの付き添いがあればいつでも可能です。	近隣への散歩は毎日のように行われている。また、衣類や仏壇のお供え物の購入に出かけるなど個別の支援もしている。時々、道の駅に行って季節の風景を楽しむ工夫をしている。	

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が本人で所持できるひとは自分で管理している。そうでない人も家族様より預かり買い物時に希望があれば買い物できる体制にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族さんとの折り合いをつけながら本人の希望を聞けるようにしている。 手紙は利用者さんの思う様に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ全員が混乱する刺激について理解しテレビや音楽の音量は大きすぎず聞こえる範囲になる様に気を付けています。 温度も冬は20℃以上、夏は30℃以下になるように注意しています。その他不快になる事が無い様に気を付けています。	食卓で昔の童謡を唄ったり、カルタ遊びやタオルを使ったりハビリ体操をしたり、雑巾を縫ったり、共有空間は入居者が思い思いに過ごせる居心地のよい場となっている。掘ごたつのある畳スペースは使う機会が少ないので工夫中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間は大きく3つ程度に分けれますので、各自でそれを使って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物等は家から持参されています。 動かせる家具は本人さんの希望を聞いて置いています。 仏壇を持ち込まれている方もいます。	居室前格子戸の表札は、入居者が筆で名前を書いている。仏壇を置いたり、俳句作りが好きな方はベッド横の机に硯箱と筆を自宅から持参し、趣味が活かせるしつらえになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を貼ったりトイレが分からない方にはトイレの張り紙をして対応しています。 家事も出来る事を探して出来るだけ参加出来る様に工夫しています。		